

教科 科目	国語 論理国語	学 年	6 年	単 位	文系 4 単位 理系 2 単位	担 当	岩崎勇太・野見山和也
【科目の概要】 近代～現代のさまざまな文章を読み、視野を広げ思考力をつけます。同時に、現代社会に対応するため、資料や図グラフを理解する力やプレゼンテーションする力も育成します。現代文演習では、大学受験に必要な読解力を身に着けます。							
【育成をめざす学力】 ① 自学できる力 ② 多様なテキスト（文章・資料・図・グラフなど）を読解する力 ③ テキストに書かれていることを自分の知識や考え方、経験と結びつけて理解する力 自分の意見を適切な形で発信できる力							
【評価基準・評価項目】 ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が身についている。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	評論「人間と言う中心と、それよりも〈軽い命〉」「言語が見せる世界」／演習						
5 月	評論「身体の個性性」「いのちのかたち」／演習						
6 月	評論「リスク社会とは何か」「コスモポリタニズムの可能性」／演習						
7 月	評論「ジェンダー化された身体の行方」／演習						
8 月	評論「ヒトの進化と現代社会」／入試問題演習						
9 月	評論「目に見える制度と見えない制度」「『である』ことと『する』こと」／演習						
10 月	評論「漫罵」「現代日本の開化」／演習						
11 月	評論「ローカル鉄道の改革と地域振興」「重装備農業からの脱却」／演習						
12 月	大学入学共通テスト対策						
1～3 月	大学入学共通テスト・国立二次・私大対策演習						

教科 科目	国語 古典探究（古文・ 古文演習）	学 年	6 年	単 位	古文 2 単位 演習 1 単位	担 当	岩崎勇太・佐藤春美
【科目の概要】							
さまざまな古文の文章を読むことで、人間・社会・自然などについて、自分の考えを深めたり発展させたりするようにします。また、古語・文法事項・古典常識などを的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、古文特有の文体や修辞などの表現上の特徴をとらえられるようにします。日本人の原点として、その伝統的文化や言葉を大切にしながら、生活様式や、美意識、価値観を学び、その生き方を豊かに広げていく一助としていきます。センター試験等の入試問題に解答できる力をつけていきます。							
【育成をめざす学力】							
① 自学（予習・復習など）できる力 ② 古語・文法事項・古典常識などに関する基礎知識力 ③ 多様なテキスト（韻文・物語文・随筆思想ど）を読解する力 ④ テキストに書かれていることを自分の知識や考え方、経験と結びつけて表現する力 ④ 入試の出題形式に応じて解答できる力							
【評価基準・評価項目】							
- 古文の正確な現代語訳ができる。 ・和歌の解釈や観賞ができる。 - 古典文法（助詞・敬語・和歌の修辞法）などが理解できる。 ・文学史を理解できる。 - 登場人物の心情説明等、設問形式に応じた解答（字数制限のある解答）ができる。 - 作品の時代背景や価値観、文学史的な意義などを理解し、表現できる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	歴史物語「大鏡」花山天皇の出家 ・問題演習						
5 月	日記「更級日記」源氏の五十余巻、・問題演習						
6 月	説話「発心集」叡実、路頭の病者を憐れむ事、随筆「宮に初めて参りたるころ」・問題演習						
7 月	物語「源氏物語」葵の上の出産 ・問題演習						
8 月	＊入試問題演習						
9 月	歴史物語「大鏡」菅原道真の左遷 ・問題演習						
10 月	歴史物語「大鏡」三舟の才、評論「俊頼髓脳」歌のよしあし ・問題演習						
11 月	評論「毎月抄」本歌取り 評論「去来抄」行く春を、下京や ・問題演習						
12 月	・大学入学共通テスト対策演習						
1 月	大学入学共通テスト対策演習・私大入試対策演習						
2～3 月	国公立・私大入試対策演習						

教科 科目	国語 古典探究（漢文）	学 年	6 年	単 位	1 単位	担 当	岩崎勇太・佐藤春美
【科目の概要】 漢文の句法や基礎的な知識を理解し、現代語訳や解釈ができるようにします。正しく内容を把握でき、共通テストに対応できる力を養います。また中国の歴史・思想などに触れることで、日本文化に大きな影響を与えた文化を理解させ、世界史の中での中国文化を把握させます。							
【育成をめざす学力】 ① 自学（予習・復習など）できる力 ② 漢文句法や重要語に関する基礎知識力 ③ 多様なテキスト（漢詩・物語・随筆・思想・史伝など）を読解する力 ④ 複数のテキストに書かれていることを結びつけて理解する力							
【評価基準・評価項目】 ・漢文の訓読ができる。 ・漢文の正確な現代語訳ができる。 ・漢詩の解釈ができる。 ・初見の文章でも、短時間で、おおよその内容把握ができる。 ・共通テストや個別学力試験において、正しい選択肢が選べる。 ・個別学力試験において、正しい記述ができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	逸話「不顧後患」						
5 月	逸話「不死之薬」						
6 月	諸家の文章（一）「捕蛇者説」						
7 月	漢詩						
8 月	入試問題演習						
9 月	諸家の文章（二）「売柑者言」						
10 月	史記の群像「管鮑之交」						
11 月	史記の群像「荊軻」						
12 月	大学入学共通テスト対策演習						
1 月	大学入学共通テスト・私大入試対策演習						
2～3 月	国公立・私大入試対策演習						

教 科 科 目	社会演習 (世界史探求)	学 年	6 年文系 (選択者)	単 位	3 単位	担 当	下川 徹也
【科目の概要】国際紛争、環境問題、人口問題、経済格差など、現代社会には世界的な視野で解決が求められる課題が山積している。こうした問題を改善していくには民族・宗教・ことばなど文化の違いをこえた対話が欠かせず、そして対話にはおたがいを理解することが前提となる。文化の違いは人々の歩んできた歴史に影響を受けており、また現在のさまざまな課題は過去の人々の営みの延長線上に発生している。私たちが幸せを求めて未来を志向するほど、過去についての学びは大切となる。6 年の世界史では、2 つの世界大戦の学習後、古代から中世世界を学習し、地域の歴史的特性への理解を深めることを通して現代の国際的諸問題の原点に立ち返り、真の国際人として国際平和に貢献できるような人材となるよう、国際社会を創造するためのあらゆる課題を多角的に捉えていく。また、演習時間の充実により、入試に通用する受験力を養っていく。							
【育成をめざす学力】 ・世界史を総合的に理解するために必要な基本用語を習得する力 ・学習内容を整理し、「人間理解」「社会認識」に関する地域・時代別の特性や普遍性を理解する力 ・学習内容を具体例として、「人間理解」「社会認識」に関する地域・時代別の特性や普遍性を説明する力 ・学習内容を自己の関わりからとらえ、世界史における「人間理解」「社会認識」のあり方を推断し、評価する力 ・自己の価値観から現代社会を分析し、世界の歴史が与えた影響をふまえて社会課題に対する解決策を提示する力 ・学習活動を通じ、世界史学習の意義を理解し、学習への興味・関心を喚起する力 ・学習活動を通じ、自己の学習状況や学習姿勢を検証し、改善する力							
【評価基準・評価項目】 ・学習した基本用語を正確に暗記し、表記できる（社 A ①） ・基本用語同士の関係を図式化し、単元の学習内容について整理できる（社 A ②） ・基本用語を使って、単元の学習内容について説明できる（社 A ③） ・単元の学習内容を通じて、各地域・時代の「人間理解」「社会認識」の特殊性・普遍性を判断できる（社 B ①②） ・各地域・時代の「人間理解」「社会認識」について自分の価値観に照らして評価できる（社 B ③） ・社会問題から解決課題を発見し、学習内容を活用しながら解決策を提示できる（社 C ①～⑤） ・学習過程において図版、地図、グラフ、文章等の資料を読み取ることができる（社 A ④） ・学習過程において必要な情報を収集し、図版、地図、グラフ、文章等の資料として提示できる（社 B ④、C ①～⑤） ・学習成果を通じて、学習内容に関する習得、理解、活用状況を検証し、改善できる（社 A ⑤、B ⑤、C ⑥） ・学習過程を通じて、世界史学習の意義を理解し、興味・関心を喚起できる（社 C ⑦）							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	近世ヨーロッパ世界の動向						
5 月	産業革命と環太平洋革命、イギリスの優位と欧米国民国家の形成						
6 月	アジア諸地域の動揺						
7 月 8 月	帝国主義とアジアの民族運動						
9 月	第一次世界大戦と世界の変容						
10 月	第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成						
11 月	冷戦と第三世界の台頭 冷戦の終結と今日の世界						
12 月	総合演習（各国史・時代横断史）						
1 月	総合演習（大学入学共通テスト対策演習）						
2 月	総合演習（私大対策演習：特別時間割）						

教科 科目	社会演習 (日本史探究)	学 年	6 年文系 (選択者)	単 位	3 単位	担 当	古賀 倫子
国際化の進んだ今日では、世界各地で人々と接する機会が増え、自分とは異なる文化を理解する努力が求められています。異文化を理解し、異文化との共生をめざすためには正しい歴史認識をもつことが大切です。そこで、6 学年では、5 学年からの継続的な歴史をふまえて学習を深めていき、近世社会の政治の特徴から近代国家の成立や国際関係を考察し、現代社会の諸問題につながる課題を見つけ、世界と日本のもつ様々な課題解決の方策を探っていきます。							
【育成をめざす学力】 ・日本の文化と伝統と現代日本の課題を理解するための日本史の基本的事項を習得する力。 ・史料および資料の意味、さらに将来の予測を読み取る力 ・歴史の時系列の理解、歴史の過程に見られる「原因・結果・影響」を整理する力 ・歴史的な見方や考え方から現代への問題を考えることができる力 ・学習活動を通じ、日本史の学習の意義を理解し、学習への興味・関心を喚起する力 ・学習活動を通じ、自己の学習状況や学習姿勢を検証し、改善する力							
【評価基準・評価項目】 ・学習した基本用語を正確に暗記し、表記できる（社 A①） ・基本用語同士の関係を図式化して歴史事象を理解し、整理できる（社 A②） ・歴史事象を大きな歴史に意味づけ、他事象と比較して地域的・時代的特殊性・普遍性を判断できる（社 B①②） ・各地域・時代の「人間・社会認識」や現代的課題との関連から、歴史事象について評価できる（社 B③） ・歴史事象の課題を発見し、解決策を考え、その結論を提示できる。（社 C①～⑤） ・歴史事象に関する図版、地図、グラフ、文章等の資料から、歴史事象を理解できる（社 A④） ・歴史事象の成果と課題を図版、地図、グラフ、文章等の資料を活用して表現できる（社 B④，C①～⑤） ・歴史事象の成果と課題について、他者と建設的な議論ができる（社 A⑤，B⑤，C⑥） ・歴史事象の学習を通じて、歴史学習の意義を理解し、興味・関心を喚起できる（社 C⑦）							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	第 6 章 武家政権の成立 2. 武士の社会 3. モンゴル襲来と幕府の衰退 4. 鎌倉文化						
5 月	第 7 章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立 2. 幕府の衰退と庶民の台頭 3. 室町文化						
6 月	第 8 章 1. 織豊政権 2. 桃山文化						
7 月	第 9 章 幕藩体制の成立と展開 1. 幕藩体制の成立 2. 幕藩社会の構造 3. 幕政の安定 4. 経済の発展						
8 月	第 10 章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革 2. 宝暦・天明期の文化 3. 幕府の衰退と近代への道 江戸の文化						
9 月	第 11 章 近世から近代へ 1. 開国と幕末の動乱 2. 幕府の滅亡と新政府の発足						
10 月	第 12 章 近代国家の成立 1. 明治維新と富国強兵 2. 立憲国家の成立						
11 月	第 13 章 近代国家の展開 1. 日清・日露戦争と国際関係 2. 第一次世界大戦と日本～ワシントン体制						
12 月	近代の産業と生活 1. 近代産業の発展 2. 近代文化の発達 3. 市民生活と大衆文化 恐慌と第二次世界大戦～ 占領下の日本 高度成長の時代～激動する世界と日本 済大国への道 2. 冷戦の終結と日本社会の変容						
1 月	大学入学共通テスト・私大・二次対策						
2 月							

教科 科目	社会演習 (地理)	学 年	6年理系	単 位	2単位	担 当	古賀 彩香
【科目の概要】							
現代の世界は、かつてないほどに地域間の交流が深まり、それに伴い、経済格差・国際紛争・環境問題・人口問題など解決を迫られた問題が山積している。こうした問題を解決するには、人間世界の発展の歴史という時間を指標にした縦軸と、現在の視点で世界の諸地域の成り立ちや関連を理解する横軸の視点が必要である。地理では、この横軸として世界各地がどのような自然的立地条件によって成り立ち、どのような経済・政治状態で発展し、お互いにどのような関連で結びついているかを理解し、それらの狭間で起こっている諸問題について、解決の糸口を探りたい。							
【育成を目指す学力】							
・学習した基本用語を習得する力 ・世界の国々や地方の、地域の特性について、一般性と特殊性、個性を理解する力 ・地図化された資料、図式化された諸資料を読み取り、その中から問題解決に必要な具体的事実を提示する力 ・事象を諸地域との関連上で思考する地理的見方・考え方でとらえ、図式化、地図化する力 ・学習内容を人間理解や社会認識につなげる力 ・諸地域の個別の学習から、世界規模の課題を発見し、説得力ある改善の方策を探り表示する力							
【評価基準・評価項目】							
・基本用語を正確に暗記し、表記できる。(A①) ・各地域についての基本用語同士の関係を把握し、図式化できる。(A②) ・提示された資料から、各地域の特徴を読み取り、特徴の判断に必用な情報を抽出できる。(A④) ・各地域の社会観や人間観に対する判断に必用な資料を収集指定時できる。(B④) ・各地域の社会観や人間観を推測し、自分の見かたとして説明できる。(B②) ・地図化された資料、図式化された諸資料を読み取り、その中から問題解決に必要な具体的事実を独自の視点から考えることができる。(C②) ・学習過程を通じて、地理学習の意義を理解し、興味・関心を喚起できる。(C⑦)							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月 5月 6月 7月	農業・工業・第三次産業 人口、村落・都市 1節 世界の人口 2節 人口問題 ①世界の人口問題 ②発展途上国の人口問題 ③④先進国・日本の人口問題 3節 村落と都市 ①集落の成り立ち ②形態と機能 ③機能と生活 ④日本の都市 都市・住居問題 ①世界の都市・住居問題 ②日本の都市・住居問題 第2章 生活文化、民族・宗教 1節 生活文化 ①②生活文化の地域差異・画一化 ③日本の生活文化 2節 民族と宗教 ①民族・言語 ②宗教 第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 3章 生活文化、都市と村落 4章 生活文化、民族・宗教						
8月 9月 10月	第Ⅲ部 1章 現代世界の地域区分 2章 1節 地誌の考察方法 2節 東アジア ①アジアの自然環境 ②中国 ③韓国・北朝鮮 2節 東南アジア ①自然環境と社会 ②東南アジア諸国 3節 南アジア ①自然環境と社会 ②南アジア諸国 5・6節 西アジア・アフリカ ①自然環境 ②社会 ③農業 ④鉱産資源 ⑤西アジア諸国 ⑥北アフリカ諸国 ⑦中南アフリカ諸国 7節 ヨーロッパ ①自然環境 ②社会 ③EU ④農林水産業 ⑤鉱工業						
11月 12月 1月	8節 ロシアと周辺諸国（旧ソ連） ①自然環境 ②社会 ③農産 ④鉱工業 9節 アングロアメリカ 10節 ラテンアメリカ 11節 オセアニア 大学入学共通テスト対策						

教科 科目	公民演習	学 年	6 年文系 (選択者)	単 位	2 単位	担 当	古賀 彩香
【科目の概要】ソ連邦のウクライナ侵攻は事態の収束が未だ見えない中、国際社会は、自国中心主義の下、武装平和による安全保障への回帰が顕著となっている一方で、紛争下での貧困や人権侵害、地球環境の破壊など、一体化して取り組むべき課題が山積している。日本に目を転じれば、少子高齢化の進行、低迷する日本経済の中での物価高と不安定な雇用、資源・エネルギー問題の深刻化、IT 社会、多様性社会の進展など、これまで日本の発展を支えてきた価値観の転換を迫られる様々な課題に直面している。こうした現代社会において求められるのは、日々起こる諸事象を意味づけ、課題を発見し、問題解決の糸口を探し、他者との協働によってよりよい社会を構築していく力である。6 学年では、「現代社会」の国際経済・国際政治を学ぶことで、「世界史」学習の補強を行いつつ、未来社会の有為な形成者としての社会的スキルを磨くとともに、共通テストおよび私立大学の「現代社会」入試問題レベルに対応する問題対応力を育てる。なお「現代社会」の倫理分野および経済分野の日本経済の歩みと労働・社会保障問題は 4 学年から実施している公民補講で継続して学んでいく。							
【育成をめざす学力】 (知識) 現代日本と世界の政治・経済について、基礎事項を理解する力。 (技能) 政治・経済と自己とのかかわりを具体例から把握する力。 (活用) 現代社会の現状と課題について、根拠を示して評価する力。 (探求) 現代社会に生きる一員として何をなすべきかを考えていく問題解決力や判断力・洞察力。							
【評価基準・評価項目】 - 基本用語を正確に暗記し、表記できる。(A①) - 基本用語同士の関係を図式化し、単元の学習内容について整理できる。(A②) - 基本用語を使って、単元の学習内容について説明できる。(A③) - 現代社会を現代の政治、経済、文化について、それぞれを関連づけて理解できる。(A②) - 現代社会の諸事象に関する利害や価値観の対立論争を複合的な視点で理解し、整理できる (B②) - 現代社会の諸事象に関する判断や評価を客観的な資料を根拠に提示し、他者に説明できる。(A④B②) - 人間の特質と尊厳などについて、先哲の思想と倫理をもとに考えることができる。(B③) - 現代の人間や社会の問題点を独自の視点から設定できる。(B②) - 知識や経験、情報を活用して、現代社会の諸事象の実態把握、原因分析、将来予測から課題を設定できる (C①)。 - 現代社会の課題解決策を、知識や経験、情報収集、制約条件、自分自身の価値観によって選択・決定できる。(C③) - 自己の社会改善策の立案・提示のプロセスを通じて学習意義を発見し、学習、人間、社会に対する供与・関心を喚起できる。(C④)							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	第 2 章 現代日本の経済のしくみ 3 国民所得と経済成長 4 金融のしくみ 5 財政の仕組み 第 3 章 現代社会と福祉の向上 1 経済の停滞と再生 ～ 6 社会保障の役割						
5 月							
6 月							
7 月							
8 月							
9 月	第 2 部 第 1 章 現代の国際政治 1 国際政治の特質と国際法 ～ 6 国際政治と日本						
10 月							
11 月	第 2 章 現代の国際経済 1 商品・資本の流れと国際収支～6 経済協力と人間開発の課題						
12 月							
1 月	総合演習（共通テスト対策演習：特別時間割で実施）						
2 月	私大対策演習（個別指導）						

教科 科目	数学 数学C・数学演習	学年	6年文系 (特進+ 進学数学選択)	単 位	4単位	担 当	脇田 祥弥
【科目の概要】 数学Bでは「統計的な推測」を扱う。「統計的な推測」では母集団と標本、標本平均の分布と正規分布の関係などを理解し、具体例を通して統計的な推測の考えを身に付け、それを用いて標本のもつ傾向から母集団のもつ傾向を推測できるようにする。数学Cでは「ベクトル」を扱う。ベクトルは19世紀の後半から、物理と数学の2つの学問の流れの中で誕生した抽象概念で、高校の教材としては歴史的に最も新しいものの一つである。ベクトルについての基本的な概念を理解し、図形の性質や関係をベクトルを用いて表現したり、いろいろな事象の考察に活用できるようにする。 数学演習では、これまでに履修した数学ⅠA、ⅡBの知識を柔軟に組み合わせて活用しながら、大学入学共通テストにおいて十分対応できるよう問題演習を行う。養うべきことは、思考力と正確で速い計算力であり、直観力や表現力(数式・イメージ図・グラフ)も必要である。入試問題に対して、①「問題」を色々な視点から分析できる力、②与えられた条件を正確に把握出来る力、③何が問われているのかを明確に把握出来る力、④今まで学んできた知識を駆使して的確な解法を選び取る力、また、⑤その解法のプロセスを明快に表現・説明できる力の育成を目指す。							
【育成をめざす学力】数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。 ①基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、<u>基礎的な知識を習得し活用できる力</u>(A) ②色々な事象を数学的に考察して的確に<u>情報を取り出す力</u>(C)、<u>取り出した情報を表現できる力</u>(C)、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け<u>的確に問題を解決できる力</u>(BDE)・<u>表現できる力</u>(E) ③数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ<u>論理的に考える力</u>(D) ④数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に<u>活用する力</u>(G)							
【評価基準・評価項目】 ①定義や公理などの基礎的な知識が理解のもとで身につけている。②法則や定理が理解のもとで身につけている。③問題の条件が正確に把握できる。④問題の条件を数式・図・グラフ等を用いて数学的に表現できる。⑤何が問われているのかが正確に把握できる。⑥問題解決のための方法を多角的に考察できる。 ⑦問題解決の方法を仲間と一緒に考え合うことができる。⑧問題の解法のプロセスを正確に記述できる。⑨問題の解法のプロセスを的確に説明できる。⑩「問題」を評価しようとする姿勢を持っている。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月 5月	基礎問題演習 数B 第2章 統計的な推測 数C 第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算						
6月 7月	基礎問題演習 数C 第1章 平面上のベクトル 第2節 ベクトルと平面図形						
8月	数C 第2章 空間のベクトル						
9月 10月 11月	基礎問題・総合問題演習 四訂版メジアン数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B センター試験過去問演習						
12月 1月 2月	大学入学共通テスト・入試対策実践問題演習						

教科・科目	数学Ⅲ・数学 C	学年	6 年理系	単位	5 単位+3 単位	担当	宮原 望
使用する教科書・教材	『新編数学Ⅲ』『新編数学 C』（数研出版）、問題集「クリアー数学Ⅲ」「クリアー数学 C」（数研出版）、その他プリント等						
【科目の概要】数学Ⅲの内容は大きな枠組みでいえば「初等解析学」の分野にあたる。「初等解析学」では、数学Ⅱに比べて関数や極限の概念、関数の連続性をやや厳密に捉えなおした上で、「微分積分」を有理・無理関数、指数・対数関数、三角関数などの初等関数に拡張する。また、積分の概念の本来の意味の表現である「区分求積法」や微分積分学の一つのルーツである速度・加速度・道のりの関係にも触れる。数学 C の内容は大きく分けて「ベクトル」「複素数平面」「2 次曲線の代数方程式・極方程式」の 3 分野に分けられる。ベクトルについての基本的な概念を理解し、図形の性質や関係を、ベクトルを用いて表現するなど、いろいろな事象の考察に活用できるようにする。「複素数平面」は、「ベクトル」との関連を意識しつつ、平面における回転の演算を導入する。「2 次曲線の代数方程式・極方程式」は、後に「初等解析学」と融合し、微分積分の方法でそれらの解析を行う。 【育成をめざす学力】まずはバランスのとれた直観力と表現力(数式・イメージ図・グラフ)、正確で速い計算力であり、中等教育における「数学」の学力の集大成といえる。つまり、数Ⅲが目指す力は、①「問題」を色々な視点から分析できる力、②与えられた条件を正確に把握出来る力、③何が問われているのかを明確に把握出来る力、④今まで学んできた知識を駆使して的確な解法を選び取る力、また、⑤その解法のプロセスを明快に表現・説明できる力を目指す。また、⑥「問題」の背景やその意味、「問題」の質など、「問題」を評価できる力もつけたい。数学Ⅲは高校と大学の数学を橋渡しする科目であり、理系の進路選択者にとっては必須科目であるし、大学での学びの基礎である。 【評価基準・評価項目】①定義や公理などの基礎的な知識が理解のもとで身につけている。②法則や定理が理解のもとで身につけている。③問題の条件が正確に把握できる。④問題の条件を数式・図・グラフ等を用いて数学的に表現できる。⑤何が問われているのかが正確に把握できる。⑥問題解決のための方法を多角的に考察できる。⑦問題解決の方法を仲間と一緒に考え合うことができる。⑧問題の解法のプロセスを正確に記述できる。⑨問題の解法のプロセスを的確に説明できる。⑩「問題」を評価しようとする姿勢を持っている。							
【年間指導単元・内容と学習活動】Ⅲ					C		
4 月 5 月	第 2 章 極限 第 2 節 関数の極限 第 3 章 微分法 第 1 節 導関数 第 2 節 いろいろな関数の導関数 (三角関数・対数関数・指数関数の導関数の公式)				第 3 章 複素数平面 (ド・モアブルの定理) (複素数と図形) 第 4 章 式と曲線 第 1 節 2 次曲線 (放物線・楕円・双曲線)		
6 月	第 3 章 微分法 第 2 節 いろいろな関数の導関数 (曲線の方程式と導関数、曲線の媒介変数表示と導関数) 第 4 章 微分法の応用 第 1 節 導関数の応用 (接線の方程式)				第 1 節 2 次曲線 (平行移動、2 次曲線と直線) 第 2 節 媒介変表示と極座標 (曲線の媒介変数表示)		
7 月 8 月	第 4 章 微分法の応用 第 1 節 導関数の応用 (連続、中間値、平均値の定理、関数の値の変化、グラフ) 第 2 節 いろいろな応用				第 2 節 媒介変表示と極座標 (極座標と極方程式)		
9 月	数学Ⅲ 第 5 章 積分法とその応用						
10 月	数学総合問題演習 (微分・積分融合問題) 数学 B 第 2 章 統計的な推測						
11 月	数学総合問題演習 (大学入試問題)						
12 月	数学総合問題演習 (大学入試問題)						
1 月	大学入学共通テスト対策問題演習、 私大・国公立 2 次試験対策問題演習						
2 月	私大・国公立 2 次試験対策問題演習						

教科 科目	物理	学 年	6 年理選	単 位	3.5 単位	担 当	井上 雄二
【科目の概要】 自然の事物や現象についての理解を深め、人間生活とのかかわりを考えることを主眼において、物理学的に探究する能力と態度を育て、同時に基本的な概念や原理・法則を理解する。5 年次に身につけた物理的解釈の仕方を基礎とし、更に複雑な物理現象についてもモデル化し、条件から文字式を導くことで科学的な根拠に基づいて説明できるようにする。							
【育成をめざす学力】 (1) 身近な現象から先端技術にいたるまで興味や関心をもって、科学的に物事をとらえようとする力 (2) 自然の事物や現象の知識を身につけ、自然のしくみや法則等を理解することのできる力 (3) 知識と与えられた条件から予想する力 (4) 現象のモデル化，グラフ化を行い，文字式を用いて数的処理をし科学的に考えることができる力 (5) 資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解し，分析したり考察したりする力							
【評価基準・評価項目】 知識・技能…物理現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。（評価材料：定期考査、小テスト、実技テスト） 思考・判断・表現…物理現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。（評価材料：定期考査、小テスト、実験・観察レポート、プレゼンテーション、調べ学習や研究作品） 主体的に取り組む態度…様々な物理現象に関心を持ち、主体的に関わりつつ、見通しをもって振り返りをするなど、科学的に探究しようとしている。（評価材料：授業中の取り組みや態度、振り返りシート、レポート、授業ノート、調べ学習や研究作品、小テスト）							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	Ⅱ－① 熱と気体（気体の状態変化）Ⅲ－② 波（正弦波）						
5 月	Ⅳ－① 電場（静電気力・電場・電位・コンデンサー）						
6 月	Ⅳ－③ 電流と磁場（磁場・電流のつくる磁場・電流が磁場から受ける力）						
7 月	Ⅳ－③ 電流と磁場（ローレンツ力・電磁誘導の法則）						
8 月	Ⅳ－④ 電磁誘導と電磁波（交流の発生・自己誘導と相互誘導・交流回路）						
9 月	V－① 原子（電子・光の粒子性・X 線・粒子の波動性） V－② 原子（原子の構造とエネルギー準位・原子核・放射線とその性質・核反応と核エネルギー・素粒子）						
10 月	問題演習(大学入学共通テスト対策，国公立・私立大入試対策)						
11 月							
12 月							
1 月							
2 月							

教科 科目	化学	学 年	6 年理	単 位	3.5 単位	担 当	山内 かな子
【科目の概要】 化学では、理論化学・無機物質・有機化合物を学びます。理論化学で、基本的な概念や原理・法則への理解を深めることで、無機物質や有機化合物を化学的な視点でとらえることができます。日常生活における化学について興味や疑問をもち、思考する習慣をつけましょう。これらの学びを通して、化学と社会との関わりや、化学の役割について考えていきましょう。							
【育成をめざす学力】 (1) 化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、化学的に考える力 (2) 文章・図・グラフを読み取る力 (3) 自身の考えや思考プロセスを適切な方法で表現する力 (4) 興味関心をもって学び、自らを振り返り学力向上に努める姿勢 (5) 他者を尊重し、共同学習する姿勢 (6) 安全に配慮し、実験・観察を行う姿勢							
【評価基準・評価項目】 知識・技能 …化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。(評価材料：定期考査、小テスト、実技テスト) 思考・判断・表現 …化学的な事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。(評価材料：定期考査、小テスト、実験・観察レポート、調べ学習や研究作品、プレゼンテーション) (1) 主体的に取り組む態度 …化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。(評価材料：授業中の取り組みや態度、振り返りシート、レポート、理科ノート、調べ学習や研究作品、小テスト、プレゼンテーション)							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	第 3 章 無機物質	1 節	元素と周期表	2 節	非金属元素		
5 月		3 節	典型金属元素	4 節	遷移元素		
6 月		3 節	遷移元素				
7 月	第 4 章 有機化合物	1 節	有機化合物の特徴と分類	2 節	脂肪族炭化水素		
8 月		3 節	酸素を含む脂肪族化合物				
9 月		3 節	酸素を含む脂肪族化合物	4 節	芳香族化合物		
10 月	第 5 章 高分子化合物	1 節	高分子化合物	2 節	天然高分子化合物		
11 月		3 節	合成高分子化合物				
12 月	大学入学共通テスト試験対策						
1 月	大学入学共通テスト試験対策			二次試験対策			
2 月	二次試験対策						

教 科 科 目	生物	学 年	6 年理選	単 位	3.5 単位	担 当	廣田 裕枝
【科目の概要】							
生物学は、私たちにとって最も身近な科学です。なぜならそれは、生物としての自分自身を知ることであり、そこから見えてくる普遍的な生命現象を理解することだからです。最近の科学の進歩はめざましく、医療や遺伝子工学、環境科学の技術は一般人の理解を超えているように思われがちです。しかし、生物基礎で学んだことを基盤に、生物の授業の中でさらに深く知識や原理を学んでいくことによって、それらを理解し、身近なものとして考えられるようになるはず です。ぜひ、身の回りの自然現象や最先端の科学に興味を持ち、楽しんで授業を受けてください。							
【育成をめざす学力】							
(1) 興味や関心をもって身近な現象や先端技術をとらえようとする力。知識と与えられた条件から予想する力。 (2) 自然の事物や現象の知識を身につけ、自然のしくみや法則等を理解することのできる力。 (3) 学習の方法やその工夫を考え基本事項を正確に理解し、定着させる力。 (4) 資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解する力分析したり考察したりする力。 (5) 根気強く、速く、正確に計算する力。単位の意味を理解し、正しく活用することができる力。 (6) 複数の単元で学習した内容を組み合わせて活用する力							
【評価基準・評価項目】							
知識・技能…生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。（評価材料：定期考査、小テスト、実技テスト） 思考・判断・表現…生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。（評価材料：定期考査、小テスト、実験・観察レポート、プレゼンテーション、調べ学習や研究作品） 主体的に取り組む態度…生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。（評価材料：授業中の取り組みや態度、振り返りシート、レポート、授業ノート、調べ学習や研究作品、小テスト）							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	第 4 部 生物の環境応答	第 12 章 植物の生殖と発生					
5 月	第 5 部 生態と環境	第 13 章 個体群と生物群集					
6 月		第 14 章 生態系					
7 月	受験演習（発展問題 など）						
8 月							
9 月							
10 月	大学入学共通テスト対策演習						
11 月							
12 月							
1 月	大学入学共通テスト対策演習	私大・国公立二次対策演習					
2 月	私大・国公立二次対策演習						

教 科 科 目	理科演習	学 年	6 年文選	単 位	2 単位	担 当	(化基) 山内 かな子 (生基) 廣田 裕枝
【科目の概要】 6 年の理科演習では、化学基礎・生物基礎の授業の内容をさらに深め、共通テスト、国公立の 2 次試験や看護・栄養系入試に対応できる実力を身につけていきます。							
【育成をめざす学力】 (1) 興味や関心をもって身近な現象や先端技術をとらえようとする力。知識と与えられた条件から予想する力。 (2) 自然の事物や現象の知識を身につけ、自然のしくみや法則等を理解することのできる力。 (3) 学習の方法やその工夫を考え基本事項を正確に理解し、定着させる力。 (4) 資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解する力分析したり考察したりする力。 (5) 根気強く、速く、正確に計算する力。単位の意味を理解し、正しく活用することができる力。 (6) 複数の単元で学習した内容を組み合わせて活用する力							
【評価基準・評価項目】 知識・技能 …物質とその変化、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。（評価材料：定期考査、小テスト、実技テスト） 思考・判断・表現 …物質とその変化、生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。（評価材料：定期考査、小テスト、実験・観察レポート、プレゼンテーション、調べ学習や研究作品） 主体的に取り組む態度 …物質とその変化、生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。（評価材料：授業中の取り組みや態度、振り返りシート、レポート、授業ノート、調べ学習や研究作品、小テスト）							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
	化学基礎			生物基礎			
4 月	物質の構成			大学入学共通テスト対策演習			
5 月				大学入学共通テスト対策演習			
6 月				大学入学共通テスト対策演習			
7 月	物質の変化 日常生活の化学			大学入学共通テスト対策演習			
8 月				大学入学共通テスト対策演習			
9 月				大学入学共通テスト・私大入試対策演習			
10 月				大学入学共通テスト・私大入試対策演習			
11 月	大学入学共通テスト対策			大学入学共通テスト・私大入試対策演習			
12 月	大学入学共通テスト対策			大学入学共通テスト・私大入試対策演習			
1 月	大学入学共通テスト対策 私大国公立 2 次対策			大学入学共通テスト・私大入試対策演習			

教科 科目	音楽Ⅲ	学 年	6 年	単 位	2 単位	担 当	佐野 智江
【科目の概要】 5 年次と同様、本科目は週 1 回 2 時間連続の授業形態をとります。5 年次では、意欲的に音楽活動に参加し個性豊かな音楽表現をすることを目標としてきました。本科目ではそれをふまえた上で、集団を意識した音楽活動を展開し、周囲との調和を考えた音楽学習を実践します。学習教材も高度なものになりますが、より高い技術と音楽性の習得を目指し、授業をすすめます。社会と音楽とのかかわりについても考える機会を持ちます。							
【育成をめざす学力】 ・ 広い視野から音楽をとらえる能力。 ・ より高度な演奏技術と音楽的感性の習得。							
【評価基準・評価項目】 ○知識・技能：創意工夫を生かした表現をするための知識や技能。音楽構造の理解。（確認テスト、実技テスト） ○思考・判断・表現：音楽作品の特徴を感じ取る力。歌唱、器楽、創作表現の工夫。（実技テスト、創作活動） ○主体的に取り組む態度：各活動に対する意欲。（授業中の取り組みや態度）							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4・5 月	歌唱活動 音楽基礎知識確認 作曲家の功績（モーツァルト）						
6 月	日本歌曲について ピアノ演習 楽器について 合奏活動 確認テスト 実技テスト						
7・8 月	歌唱活動 音楽用語の学習						
9 月	作曲家の功績（バッハ、ヘンデル、ハイドンの有名曲鑑賞） イタリア歌曲について 楽曲の種類について						
10 月	作曲家の功績（ベートーヴェン、ショパンの有名曲鑑賞） 歌唱活動 楽曲研究						
11 月	クリスマス讃美歌 合奏活動 確認テスト 実技テスト						
12 月	クリスマス礼拝に向けて（ハレルヤコーラス） 高校で学習した音楽の総まとめ						

教科 科目	美術Ⅱ	学 年	6 年	単 位	2 単位	担 当	服部 夏子
【科目の概要】 自分の設定した鑑賞者、使用者の気持ちを考えつつ自分の個性を生かした作品を制作します。また作品制作と鑑賞を通して美術的表現と社会性について学びます。							
【育成をめざす学力】 ・ 表現することに価値を置き有効な表現手段を探り、表現する力 ・ 時代の中、世界の中の自分の位置を把握し、独創的な発想をする力 ・ 目標を設定し実現のために計画的に行動する力 ・ 民族・地域・時代による価値の違いに興味関心を持ち理解する力							
【評価基準・評価項目】 ・ 目的にあった表現様式（方法）・材料を選択することができる ・ 作品の良さや美しさ、作者の心情を感じとることができる ・ 自己価値を見つめ、新しい美を発見しようと努力する ・ 美術の変遷を影響と発展の観点から理解することができる ・ 世界の美術の違いを理解し、その良さを味わうことができる							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	油絵の続き 絵本を製作する 絵本の味わいを探る テーマ決定とプランニング 制作 製本・完成・鑑賞						
5 月							
6 月							
7 月							
8 月							
9 月	野外彫刻について学ぶ 野外彫刻の模型作成 卒業展示に向けてのフライヤー・チラシ作り						
10 月							
11 月							
12 月	卒業展示に向けての準備						

教 科 科 目	保健体育 体 育	学 年	6 年	単 位	3 単位	担 当	猪 寛子
【科目の概要】							
各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を促すとともに、構成、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力を育てる。健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、健康の増進と体力の向上を図る。							
【育成をめざす学力】							
・ 生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力の育成。 ・ 健康・安全の管理能力の育成。 ・ 体力の向上。							
【評価基準・評価項目】							
・ 各自が競技の特性を理解し、基本的動作ができる。 ・ 応用的技術を習得し、ゲームができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4・5 月	1 体育に関するオリエンテーション・安全教育 2 集団行動…体育で行う行動様式の習得 バドミントン ① ②スタンス						
6 月	3 バドミントン ①グリップ、スタンス ②ストローク ④ショット ⑤サーブ						
7 月	③ショット ④サービス ⑤スマッシュ ⑥評価・実技テスト						
8 月	⑦ルール説明、ゲーム 4 テニス ①グリップ、スタンス						
9 月	②グランドストローク ③ボレー						
10 月	④スマッシュ ⑤サーブ						
11 月	⑥評価、実技テスト ⑦ルール説明・簡易ゲーム ⑧ゲーム（シングルス）						
12 月	⑨ゲーム（ダブルス）						

教科 科目	家庭	学 年	6 年	単 位	2 単位	担 当	内田 絵理香
【科目の概要】 現在は男女が協力して家族の一員としての役割を果たし、家庭を築くことが重要になっています。人はどのような生き方をしようとも、日々の暮らしをなくすことはできません。家庭科は人間が生きていくために、自分の生活を自分でデザインする力をつける教科です。一人ひとりが生活の主人公になる力をつけることを目的とし、そのために必要な知識や技術、考え方などを学び、自らの力で生活できる能力を身につけ、自分の生活スタイルを自己決定するだけの基本的な構えをつくっていきます。							
【育成をめざす学力】 ・ 将来の生活設計を考えようとする力 ・ 情報を収集・活用する力 ・ 自分の考えをまとめる力 ・ 課題に対して様々な角度から考える力 ・ 生活をよりよいものにしていこうとする意欲や創意工夫する力							
【評価基準・評価項目】 ・ 学習した領域についての基本的知識を習得できている。 ・ 安全に配慮してグループのメンバーと協力して実習を行うことができる。 ・ 必要な情報収集・活用ができる。 ・ さまざまな視点から情報を分析し、自分の意見をまとめて発表することができる。 ・ 学習内容に関するスクラップブックを作成し、その内容を要約して発表することができる。 ・ 必要な情報を収集し、自分の考えをまとめて発表することができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4・5月	「消費行動を考える」	(1)消費行動と意思決定 (2)消費生活の現状と課題 (3)消費者の権利と責任 (4)ライフスタイルと環境					
6・7月	「経済的に自立する」	(1)暮らしと経済 (2)将来のライフプランニング					
8・9月	「住生活をつくる」	(1)人間と住まい (2)住まいの文化 (3) 住まいを計画する (4) 健康に配慮した快適な室内環境					
10月	「住生活をつくる」	(5) 安全な住まい環境 (6)持続可能な住まいづくり					
11・12月	「食生活をデザインする」	食卓の作法 食事の計画					

教科 科目	英 語 コミュニケーション英語Ⅲ 論理・表現Ⅲ	学 年	6 年	単 位	7 単位	担 当	野田美由紀・千葉敦子 井上真理子 クリス・オサリバン
【科目の概要】							
入試問題に取り上げられる英文長文問題の特徴はそのテーマ出題の多様性にあります。従って読解演習においては、様々な最新のテーマを扱った英文を論理的観点から考察し、筆者の趣旨やその英文が担っている役割を把握する力を養います。また、ネイティブ教師と日本人教師とのペアで教えるオーラルコミュニケーションの授業を通して、確かな文法力を基礎とした英作の力や、ディスカッション等が行える総合的な英語力の向上を目指していきます。論理表現Ⅲでは、文法事項や構文を復習しながら、英語で表現できる力を養います。							
【育成をめざす学力】							
Reading：速くそして正確にパラグラフごとのテーマと論理展開を見抜く力・テキストを分析的、批判的に読む力 Listening：目的をもって展開を予測しながら聴き、内容を把握する力 Speaking / Writing：与えられた知識を活用して自ら考え、積極的に英語で表現する力							
【評価基準・評価項目】							
Speaking：さまざまな問題について、他教科との連携の中で得た知識をもとに理解を深め、自分の意見を英語で、5分程度で発表することができる。また、それに対して、質疑応答や意見交換をすることができる。 Writing：さまざまな問題について、他教科との連携の中で得た知識をもとに、200語程度の英文で、自分の考えや意見を書くことができる。 プロセスライティングの過程を実行し、パラグラフで自己表現することができる。 Reading：大学入学共通テストレベルの英文を wpm150程度で読み、理解できる。 著者の意図を正確に読み取り、それに対する意見を持てる。 300語程度の英文（大学入学共通テストレベル）を読んで、英語で要約することができる。 Listening：大学入学共通テストレベルの問題に、8割正解することができる。 200 words 程度の英文を、メモをとりながら聞き、大意を把握することができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	文法演習および読解演習 パワーポイントプレゼンテーション						
5月							
6月							
7月							
8月	大学入学共通テスト対策						
9月	文法演習および読解演習 ディスカッション トピック①・トピック②						
10月							
11月							
12月							
1月	※大学入学共通テスト特別補講						
2月	※私大・国公立2次対策授業						
3月							

教科 科目	英語 英語演習	学 年	6 年 (文系)	単 位	2 単位	担当	野田美由紀・千葉敦子
【科目の概要】 主に速読力を中心に、大学入試（大学入学共通テスト）に対応できるリーディングスキルを磨いていきます。また、読んだ内容をもとに考えを深め、プロセスライティングの手法を用い、パラグラフでエッセイを書く力をつけて行きます。パラグラフライティングの力をつけることは読解力を伸ばすことにもつながり、リーディング力を高めることにもなります。							
【育成をめざす学力】 Reading：速く、正確にパラグラフごとのテーマと論理展開を見抜く力・テキストを分析的、批判的に読む力 Writing：与えられた知識を活用して自ら考え、積極的に英語で表現する力							
【評価基準・評価項目】 Writing：さまざまな問題について、他教科との連携の中で得た知識をもとに、200語程度の英文で、自分の考えや意見を書くことができる。プロセスライティングの過程を実行し、パラグラフで自己表現することができる。 Reading：大学入学共通テストレベルの英文を wpm 150 程度で読み、理解できる。著者の意図を正確に読み取り、それに対する意見を持てる。300語程度の英文（大学入学共通テストレベル）を読んで、英語で要約することができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	速読演習 ライティング						
5 月							
6 月	速読演習 ライティング						
7 月							
8 月							
9 月	速読演習 ライティング						
10 月	大学入学共通テストリーディング演習 ライティング						
11 月	大学入学共通テストリーディング演習 入試自由英作文						
12 月							
1～3 月							

教科 科目	聖書	学 年	6 年	単 位	1 単位	担 当	佐藤 清一
【科目の概要】 5 年次からの継続であるが、特に宗教改革の歴史と精神に学び、プロテスタンティズムの発展とそこに生きた人々の信仰と使命を学ぶ。							
【育成をめざす学力】 A. 聖書と教会を理解するための知識を習得し、整理する力。 B. 知識を活用（分類・分析）して聖書や教会を解釈する力。 C. 知識を活用（分類・分析）して自分自身の将来像を展望する力。							
【評価基準・評価項目】 ・キリスト教の歴史的知識を理解し、知識を身に着けている。 (宗教改革史を学んでカトリックとプロテスタントの違いを認識できる。 キリスト教が日本に伝えられたことの意義が理解できる。) ・日常生活において生じる様々な問題について、聖書に基づいて考え、判断したり、自分の意見を述べることができる。 ・聖書の授業に興味・関心を持ち、課題等に対して主体的に取り組み課題を解決しようとしている。 ・キリスト教信仰に生きた人々の信仰と行動から自分自身の将来像をイメージできる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	キリスト教史を学ぶ意味						
5 月	ドイツの宗教改革(1) (2)						
6 月	スイスの宗教改革とその影響						
7 月	イギリス国教会の成立						
8 月							
9 月							
10 月	カトリック改革						
11 月	近代欧米のキリスト教						
12 月	アジアと日本のキリスト教そして現代世界のキリスト教						
1 月							
2 月							
3 月							

教科 科目	総合表現講座	学 年	6 年	単 位	2 単位	担 当	6 学年教師
【科目の概要】 皆さんはこれまでに授業を通して、またメディアを通して、多くのことを学んできました。最上学年として今後も様々な知識を習得していきますが、この講座では、その知識（知り得た情報）を、色々な手段を使って外にむかって「表現」していくことを目的とします。その際、自分自身が理解して表現することは勿論、周囲にもその考えが伝わるような表現が出来るよう、実践を通して学びます。							
【育成をめざす学力】： ・与えられたテーマの意味が理解する力 ・情報の収集と整理、情報をもとに思考・判断する力 ・自分の考えを、様々な手段を使って的確に表現する力 ・他人の意見を受け入れ、自分の視野を広げる力 ・内容に応じて効果的に表現（プレゼンテーション）する力							
【評価基準・評価項目】： ・授業に積極的に参加することができる。 ・与えられたテーマについて、「多くのことを知ろう」とする姿勢が見られる。 ・グループ活動に意欲的に取り組むことができる。 ・自信を持って自分の意見を周囲に伝えることができる。 ・文章やプレゼンテーションなどで他者に伝わる表現ができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】：							
4 月	オリエンテーション プレゼンテーション（自己アピール）						
5 月	プレゼンテーション						
6 月	プレゼンテーション 論文読解						
7 月	論文読解						
8・9 月	論文読解 著者になりきってプレゼンテーション						
10 月 ～ 12 月	著者になりきってプレゼンテーション 年間のまとめ						

教科 科目	インテグレーション 6	学 年	6 年	単 位	1 単位	担 当	6 学年教師
【科目の概要】							
テーマ：「国際平和をめざすために、平和とは何かについて考える」 世の中の誰もが望んでいる平和な社会の実現が、これほど困難である原因は何なのか。国際平和を実現するために何が求められているのか。この授業では、「自分と世界の将来を描く」という学年目標のもと、何をどのように変えていけば、あるいは守っていけば、平和な社会を築くことができるのかを考察し、自分たちが考える「平和な社会」と現実との間で葛藤しながら、自分の考えを論理的に表現していきます。今後、国際社会の一端を担う立場として、真の平和とは何かを探究していきます。正確な情報収集～内容の精査～論文作成～論文内容を基にしたプレゼンテーションを行い、高校のインテグレーション学習の集大成とします。							
【育成をめざす学力】							
① 課題を多面的に推測し考察していく力。 ② リサーチした情報から現状分析を行い、必要な情報を客観的に読み取る力。 ③ 多面的に問題点を分析し、改善・解決の方策を探る力。 ④ 自分自身の意見（立場）を、根拠を明確にして表現する力							
【評価基準・評価項目】							
≪知識・技能≫ 課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。 （評価材料）論文作成に向けたワークシート、テーマに基づいた論文 ≪思考・判断・表現≫ 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。 （評価材料）論文作成に向けたワークシート、テーマに基づいた論文・論文発表 ≪主体的に取り組む態度≫ 主体的・協同的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。 （評価材料）授業中の取り組みや態度、提出物（ワークシート・原稿・課題）							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
1 学期	① 「平和な社会」とは何かを考える。【個人＋グループ】 ② 「平和な社会」が現時点で実現できない理由を考える。【グループ】						
2 学期	③ 「平和な社会」とは何かを実現する方法についてプレゼンテーションする【グループ】 ④ 「平和な社会を築くために」をテーマに論文を作成する【個人】						